



大好きなメッチとの思い出

三年 鈴木睦々

わたしの家にはメッチという犬がいました。メッチは一年半前に死んでしまいました。15さいでした。トイ・プードルというしゅるいの犬で、わたしが生まれた時からずっといっしょにいました。メッチはわたしにとってもやさしくて、ママにおこられた時は、たすけてくれて、話を聞いてくれました。大好きでした。わたしは一人っ子なので、お姉ちゃんみたいに思っていました。

メッチは死んでしまう前に、目も見えなくなっていました、手と足も動かなくなっていました。じゅういさんのところに行つて、びょうきがわかりました。まいにちじゅういさんのところに行って、はりをやってもらいました。時々、手足が動いたりすると、家族でよろこびました。私も手つだつて、たたかいおふろに入れて、マッサージしたり、おむつもかえてあげました。おでんの牛すじを小さくして、食べさせてあげました。おさんぽがすきだったけど、歩けなくなつてしまったので、公園に行つて草の上でねかせてあげたり、だっこしておさんぽに行きました。メッチが死んでしまう前に、国語のじゅぎょうで「ずうっと、ずうとだいきだよ」をならつていたので、メッチに毎日「だいきだよ」と言つてあげました。

メッチが死んでしまう時に、ママがだっこをしてみんなでなきながら、「またあおうね」と言つておわかれをしました。しゃっくりをして何回も私の顔を見てきました。今でも思いたすとても悲しいです。今でも毎日メッチに声をかけています。お水もかえておいのりしています。メッチの形をしたふわふわの雲をよく見かけます。メッチがいつもそばにいるような気がします。うまれかわつてもまた私のところに来てほしいです。ずっとわすれないよ。大好きだよ。ありがとうメッチ。